鳥　屋　平

飯田西部中学(仮称)建設用地内
埋蔵文化財発掘調査報告書

1983.3

長野県飯田市教育委員会

鳥　屋　平

飯田西部中学(仮称)建設用地内

埋蔵文化財発掘調査報告書

1983.3

長野県飯田市教育委員会

序

飯田市では，ここ10数年来の重点施策の１つとして，各小中学校の老朽校舎の増改築による教育施設の環境整備を行い，より良い学習活動の場を設ける努力をして来ました。

しかし，予算面等の諸条件の中で，老朽化のより進んだ学校を優先し，順次改築し，ほぼ終局段階を迎え，伊賀良・山本地区の中学校については，統合した学校を建設することで市の方針が決定し，諸手続きを図ってまいりました。

統合中学校建設については，紆余曲折がありましたが，関係各位のご努力とご協力により，伊賀良の大瀬木地区に建設することになりました。

建設に先立ち，この地が埋蔵文化財の包蔵地であるため，文化財保護の見地から，発掘調査を実施し，記録保存を図ることとしました。

今回の調査にあたり，炎天下の中，広範囲にわたる学校用地の全域を，限られた期間の中で完了することができ，伊賀良地区としては比較的高位置の遺跡として，市内では数少ない縄文時代後期の遺跡の一端を把握することができましたことは，大きく評価されるものといえます。

報告書が出版されるにあたり，文化財保護の意義を深く思うとともに，調査にあたられた佐藤甦信調査団長をはじめ，関係各位のご努力に深く感謝し，厚く御礼申し上げる次第であります。

昭和58年３月

飯田市教育委員会

教育長　林　研二

例　　言

1. 本書は飯田西部中学（仮称）建設に伴う長野県飯田市大瀬木鳥屋平遺跡発掘調査報告書である。

2. 本書は，資料提供に重点をおいて編集したものであり，編集・執筆は佐藤が担当した。

3. 遺構実測図作図は，佐藤・牧内が，遺物の作図は佐藤・小林が，製図は田口が分担し，写真は佐藤が担当した。

4. 遺構実測図のうちピット内，または横の数字は床面からの深さをcmで表わし，縮尺は図示してある。

5. 遺物は飯田市考古資料館に保管してある。

目　　次

序 …… 2
例　言 …… 3
目　次 …… 4
Ⅰ　環　境 …… 5
　1. 自然的環境 …… 5
　2. 歴史的環境 …… 6
Ⅱ　発掘調査経過 …… 8
Ⅲ　発掘調査結果 …… 10
　1. 土　坑 …… 10
　2. ロームマウンド …… 13
　3. 氾濫流路跡 …… 14
　4. 暗渠水路 …… 14
　5. 用地外の遺物 …… 15
Ⅳ　ま と め …… 18
図　版
　Ⅰ 遺 跡　Ⅱ 遺 構　Ⅲ 遺 物　Ⅳ 発掘スナップ
調査組織

挿　図　目　次

図1　鳥屋平遺跡地形・位置図及び周辺主要遺跡図（1：50,000） …… 5
図2　鳥屋平遺跡遺構分布図及び地形詳図 …… 9
図3　鳥屋平遺跡土坑1号・5号 …… 10
図4　鳥屋平遺跡土坑2号・3号・4号 …… 11
図5　鳥屋平遺跡土坑6号 …… 12
図6　鳥屋平遺跡土坑7号・8号 …… 12
図7　鳥屋平遺跡ロームマウンドⅠ・Ⅱ・Ⅲ号 …… 13
図8　鳥屋平遺跡氾濫流路跡，土坑7号，8号 …… 14
図9　鳥屋平遺跡出土遺物（1：3） …… 15
図10　鳥屋平遺跡近世酒醸用水暗渠水路 …… 16
図11　鳥屋平遺跡用地外西側畑出土遺物（1：4） …… 17

I 環　　境

1. 自然的環境

鳥屋平遺跡は長野県飯田市大瀬木鳥屋同志区にある。

大瀬木地区は，昭和31年飯田市合併前は伊賀良村大瀬木であった。伊賀良地区は飯田市街地の南々西にあって，木曽山脈の前山　笠松山（1271m），鳩打峠（1173m），高鳥屋山（1397m）の東山麓に位置し，北の飯田松川と南の茂都川（久米川の支流）の強い押出しによって広大な扇状地が発達し，伊賀良地区の中央部の大部分がこの扇状地にあるといえよう。この扇状地の中央部に大瀬木はあり，鳥屋同志区はその南西端部近くにある。

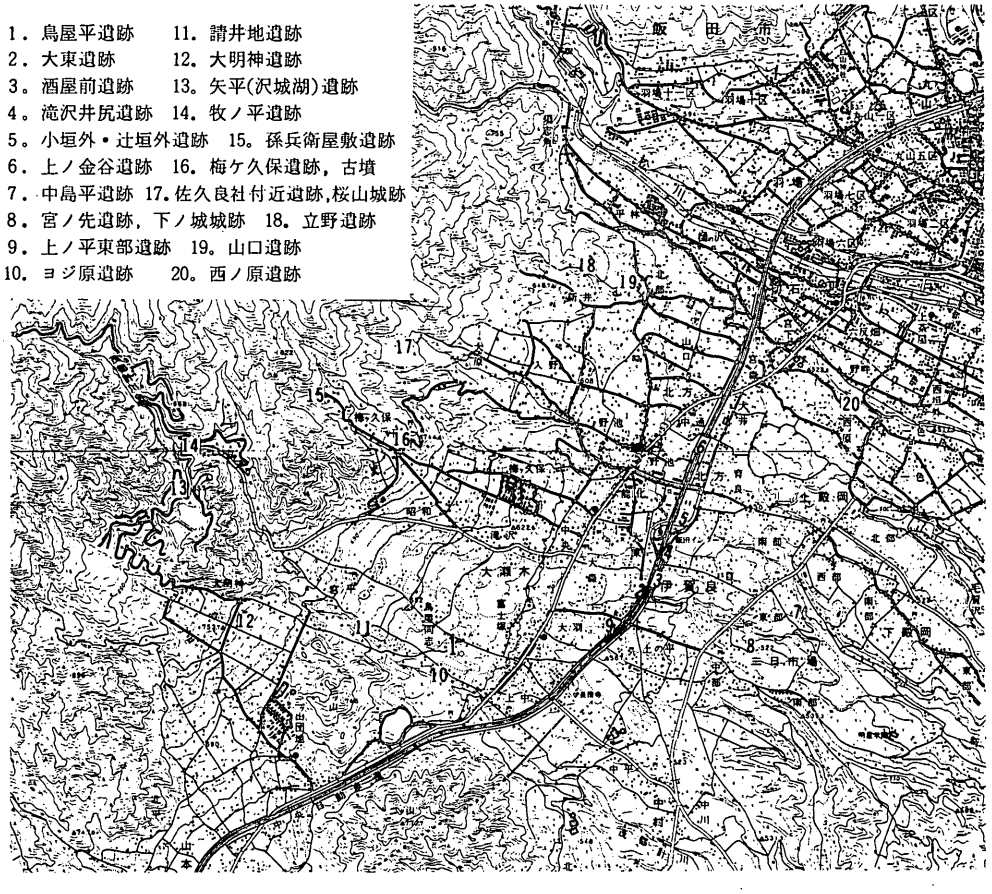


図1　鳥屋平遺跡地形・位置図及び周辺主要遺跡図（1：50,000）

遺跡は国道153号の中村の交差信号を西に約250ｍ上った所から西500ｍ，南北100～300ｍの範囲にあり，標高605～650ｍの東に向う緩い傾斜地の台地である。南側は比高2ｍの旧茂都計川（モッケ川）流路を示すとみる低地帯となり，北側は新川の上流地帯となって低地の湿田が東西方向に続いている。南北の低地帯にはさまれた台地に遺跡は立地している。

西は約1 km で山麓に至り，その小さな山の西麓には人造の沢城湖があり，観光地となっている。南は茂都川が東流し，川を隔てて二ツ山（772ｍ），三ツ山（746ｍ）があり，その西側は飯田市山本地区の盆地となる。北は低地帯を隔てて扇状地が北東に広く開け，伊賀良地区の中心地となり，伊賀良小，中学校，伊賀良支所，飯田市中央農協本所，中央道飯田インター等がある。東は国道153号，中央道，飯田中央道が南北方向に走り，広い扇状地を切る河川が南から茂都川，新川，毛賀沢川が浅い谷を作って東流している。扇状地東端部からこれら諸川の侵蝕は深かまり，いくつかの段丘差によって洪積上位・中位・下位段丘となり，沖積段丘面となって天竜川に至っている。

遺跡の微地形をみると，今次飯田西部中学校建設用地を境にした東側の中央部は比高差1～2ｍの低地帯となり，その両側に西からの台地がのびてきている。低地帯となる西の境付近には湧水があり，ここには水田用の堤ができている。遺跡の中心は低地帯を境にした西側の台地上に展開されており表採遺物も多くみられている。今次発掘地域は遺跡の東端部にあたっている。

2. 歴史的環境

伊賀良地区の遺跡を概観すると，木曽山脈の前山の山麓には，茂計川上流の矢平では弥生後期と平安時代の遺跡として知られ，孫兵衛屋敷・牧平・火振原では縄文早期押型文土器の出土をみており，各時期の包蔵量も多い。北にきて佐久良社付近遺跡があるほかは高位にある遺跡は今のところ発見されていない。扇状地上方の遺跡には笠松山の北の山裾にある立野遺跡[1]は縄文早期押型文土器の標準遺跡である。この他縄文前期・中期・後期の土器の出土もみている。立野の一段下に山口遺跡があり，縄文前期末の土器が標式となっている。この付近から南に続いて縄文前・中期の遺跡は多い。

中央道は扇状地中央を通過しており，その遺跡発掘調査[2]では，ようじ原・上の平東部・寺山・六反田・大東・酒屋前・滝沢井尻・小垣外・辻垣外・三壺渕・上ノ金谷の11遺跡が調査され，縄文時代では小垣外遺跡で前期末住居址と土坑群，中期では上の平東部・酒屋前・滝沢井尻・辻垣外・小垣外で加曽利Ｅ期の住居址が発掘調査され，小垣外では後期の良好な資料も発見されている。弥生時代後期では大東・酒屋前・滝沢井尻・上の金谷で住居址が発掘され，良好なこの期の資料を得ており，滝沢井尻の方形周溝墓より鉄剣2口の主体部出土は注目される。古墳時代では三壺渕・上の金谷で住居址が発見され，平安時代では六反田・滝沢井尻・小垣外・三壺渕・上の金谷で住居址が検出され，小垣外では緑釉陶器の出土をみており，中世では酒屋前を中心に集落の存在も予想され，良質な中世陶片の出土をみている。

扇端部から段丘面にかけては，扇状面の浸蝕も深まり，台地上の水利は悪く，遺跡は川に面す所に立地する傾向を示しているが，この面での調査は西の原遺跡[3]以外にはなく，ここでは縄文中期勝坂期の住居址3が発掘され注目されている。

大瀬木区東端部には，新川とその支流アマヅラ沢の間に形成された低位舌状台地の中島平遺跡[4]は1976年の農業構造改善事業に伴う発掘調査で縄文早期末・前期末の住居址各1，弥生後期住居址15，古墳時代中・後期住居址各1と中世住居址2の他土坑57基を検出し，各期の良好な資料を得ており，径2ｍ余の円形の土坑44号では，その底部より有舌ポイントの出土をみ，注目されている。中島平の南，新川を隔てた一段上位の段丘面に宮ノ先遺跡[5]があり，1977年度発掘調査で弥生後期住居址3，方形周溝基3基，中世遺構

群２，土坑13が調査され，特に中世前半の遺物に注意されるものがある。鳥屋平遺跡の西に請地遺跡，茂都川を隔てて大明神原遺跡がある。

伊賀良地区の古墳は43基あげられている。残存するものは９基であり，石室は破壊され，墳丘を僅かに残すにすぎないものが大半である。古墳分布は松川に面す扇端部，新川の両岸の段丘端部，茂都計川に面す段丘端部に東西方向に並んでいる。その他散在する古墳が僅かにみられる。多くは新しい時期の古墳とみられ，規模も小さい。大瀬木地区には６基の古墳の存在が知られているが，梅ケ久保古墳が殊存するのみで他は消滅されている。

伊賀良地区は古代東山道育良駅の所在地ともみられているが，それに対しての確証はない。伊賀良の庄の名は平安時代にあらわれ，文献によれば中村・久米・川路・殿岡の諸郷が含まれ，松川以南，阿知川以北の竜西一帯とみられ，中世末には伊那南端の新野まで伊賀良庄と記されているが，その中心が伊賀良にあったものとはいえない。

鎌倉初期伊賀良庄の地頭は北条時政であり，時政以後は北条氏一族江馬氏が代々そのあとをついで地頭となっている。江馬氏は伊賀良庄内に在住し庄務を行ったものではなく，多くの在地の代官にあたらしていた。その代官の分明したものに四条金吾頼基がおり，殿岡に住したことは文献上明らかである。[6] 頼基は江馬氏の重臣であり，日蓮の信者として知られている。殿岡の位置が現殿岡かは，明らかでない。

北条滅亡後，小笠原氏が信濃守護職となって来住し，小笠原氏の力によって伊賀良井の開発[7]が行われ，伊賀良地区の大開発が進んだ時期とされている。伝承によれば，伊賀良の要所に小笠原氏の武将が配置され，桜山城跡，下ノ城跡もその居城であったとみられる。

注１．神村透「立野式土器の編年的位置について(1)・(2)・(3)」　信濃20の10・12　21の３

注２．「長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書一飯田地内その２」昭和47年度

注３．伴信夫・宮沢恒之「長野県飯田市伊賀良西ノ原遺跡発掘調査報告」信濃19の12

注４．飯田市教委「伊賀良中島平」1977

注５．飯田市教委「伊賀良宮ノ先」1978

注６．宮下　操「下伊那史　第五巻」昭42

注７．筒井泰蔵「室町時代の伊賀良」伊賀良村誌　昭48

Ⅱ 発 掘 調 査 経 過

飯田市立飯田西部中学校（仮称）が，大瀬木区鳥屋同志に，伊賀良中学・山本中学の統合中学として建設されることになり，昭和57年度事業として造成工事にかかり，校舎建築工事を進めることになった。用地は鳥屋平遺跡の所在地にかかり，このため飯田市教育委員会は事前に発掘調査を行ない，記録保存することになったのが本次発掘調査である。

調査は用地西境堤から東の中央部の凹地帯は水がつかり調査不能であり，北と南の台地に調査区域を決め，北をⅠ調査区，南をⅡ調査区とした。用地買収後放置された田畑は８月半ばすぎとなり雑草は生い茂り，重機によって雑草と表土を排除しなければ手のつかぬ状態となっていた。

発 掘 調 査 日 誌

８月17日（雨）　現地をみにいき，調査区域を決め，準備をなす。

８月18日（くもり，小雨）　器材運搬，草刈り，テント設営，重機によりⅠ区の排土，午後より調査にかかる。

８月19日（晴，くもり）　Ⅰ区調査，土坑１号～５号検出調査，土坑１号より縄文後期土器片10数点の出土をみる以外遺物なし，Ⅰ区東側へ重機排土調査，遺構なし。
Ⅱ区梨畑に１列グリッド設定，遺構なし。

８月20日（晴，小雨）　土坑６号検出。土坑１号～６号覆土断面調査，完掘，写真撮影，測量。
Ⅰ区南の田，重機排土後の調査。
Ⅱ区梨畑２列グリッド設定調査，上段の畑にグリッド設定調査，ともに遺構なし。
重機Ⅰ区南縁を東へ排土作業。

８月21日（晴，暑い）　Ⅰ区重機排土後の調査，遺構はっきりしない。重機東側へ排土作業。
Ⅱ区調査グリッド位置測量。

８月22日（晴）　日曜日休み

８月23日（晴，暑い）　Ⅰ区南面の桑畑に近世酒醸の水を引いた暗渠水路を検出。（江戸時代から大正初期まで酒造りをした「ます屋」の作ったもの。

８月24日（早朝雨，晴，暑い）　暗渠水路を調査。
Ⅱ区下段の畑，重機排土，土器，石器片あり。
重機Ⅰ区上の田に入れる。

８月25日（晴，暑い）　Ⅱ区重機排土後の調査，耕作の荒れと，古い流路あとあり，遺構検出苦労する。
土坑７号・８号検出，調査。
Ⅱ区家の下の畑ピット調査するが，遺構なし。重機予定地区の作業終了。

８月26日（晴，暑い）　Ⅱ区土坑７号，８号完掘，旧流路掘り上げ，写真撮影。Ⅰ区上段田の重機排土後の調査，地深い。

８月27日（台風13号）　休み

８月28日　Ⅰ区上段田の調査，遺構とみるあり。Ⅱ区遺構分布測量，土坑７号，８号測量。

８月29日（くもり，にわか雨）　日曜日休み

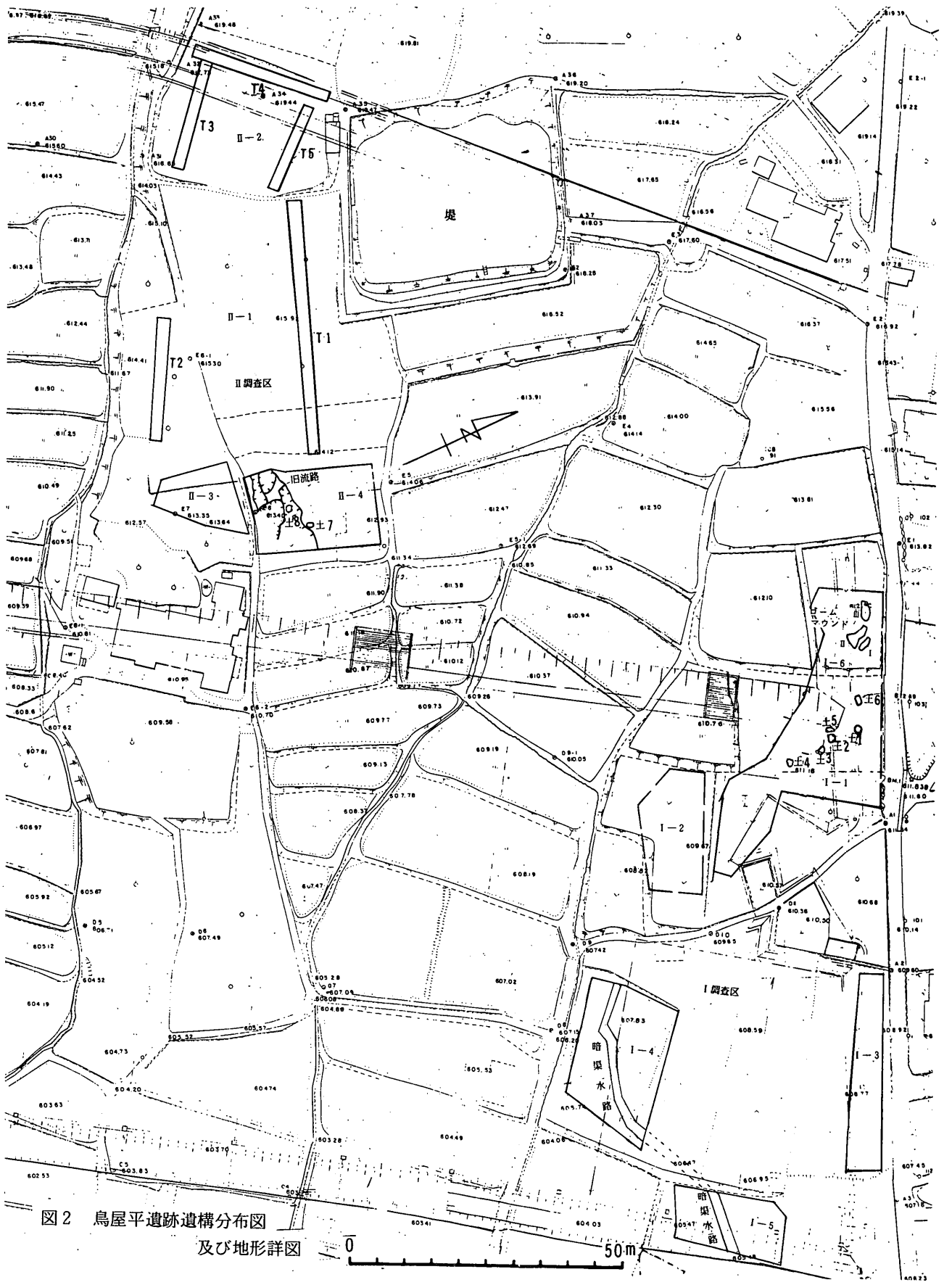


図２　鳥屋平遺跡遺構分布図
及び地形詳図

8月30日（くもり，時々小雨）　Ⅰ区，引続き調査，遺構はっきりせず。Ⅱ区旧流路測量，暗渠水路の位置測量。

8月31日（晴，暑い）　Ⅰ区ロームマウンド1，2，3号となり，完掘，写真撮影，Ⅰ区遺構分布測量。午後3時よりテントをはずし，器材整理，後日運搬するようにする。測量を残し，発掘作業を終える。

9月1日（晴，暑い）　ロームマウンド測量，暗渠水路断面調査。残りの測量を終え，現場調査終了。

9月2日（晴，夜雨）　測量図整理

9月3日（くもり，はれ）　器材撤収，前夜の雨でテントはぬれ，干して片付ける。

現場作業後，遺物整理・実測，製図をなし，報告書の作成にとりかかる。

Ⅲ　発　掘　調　査　結　果

鳥屋平遺跡において本次発掘調査された遺構は次のようである。

1. 土坑　8
2. ロームマウンド　3
3. 氾濫流路跡　1
4. 暗渠水路　1

1. 土　坑

Ⅰ調査区－1に1号～6号が18mの間にN10°Wの方向に並んで発見されている。

土坑1号（図3）

Ⅰ調査区土坑群の北にあり，南北118，東西110 cmの円形をなし，北側は袋状に掘りこまれている。深さ52cm，主軸方向N10°Wをさす。北側には径40cm大の石が据わり，その前に焼土塊があり，4この礫が底部についている。覆土には木炭を含む層があり，その覆土から底部につく土器片10数点の出土をみて

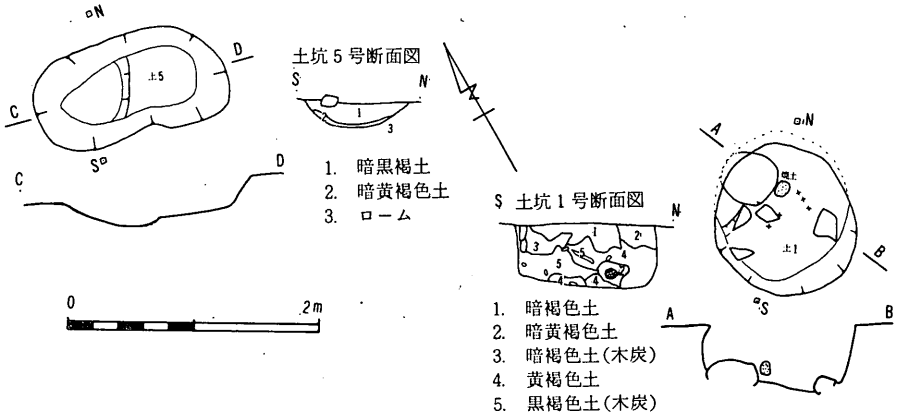


図3　鳥屋平遺跡土坑1号・5号

いる。その状態からみて土壙とみるが妥当と思われる。

遺物（図９の１～３）は無文土器片のみであり，１の深鉢，２の浅鉢があり，３は深鉢胴下部片である。無文で時期は明かでないが，その形態からみて縄文後期後半に位置づくものとみられる。

土坑２号（図４）

土坑１号の南3.5㎝にあり，西1.7ｍに４号，南1.5ｍに３号がある。南北155，東西125㎝のやや不整の楕円形をなし，主軸方向Ｎ５°Ｗを指し，ローム層に30㎝掘りこむ土坑である。覆土は褐色土，黒褐色土，暗褐色土で埋まり，底部に４この石が南北方向に並ぶ。出土遺物はなく，周辺の状況からみて縄文後期のものとみたい。

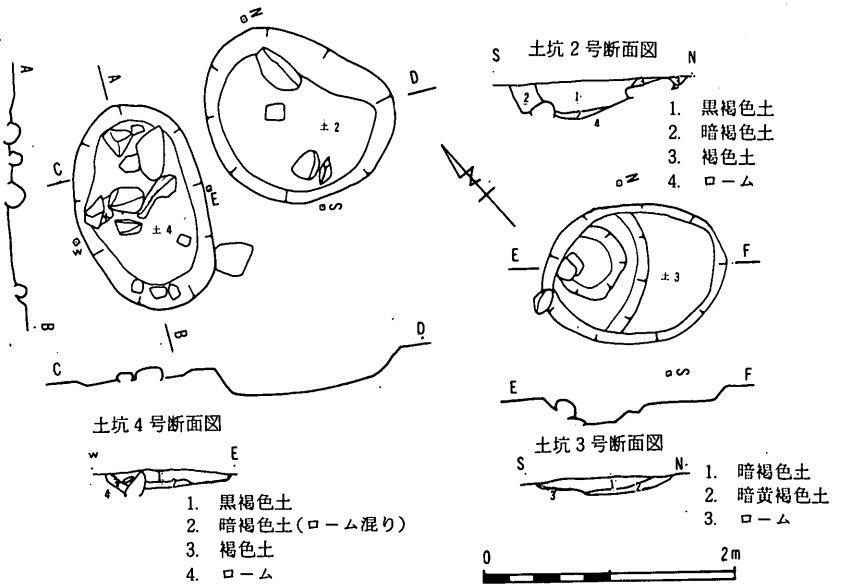


図４　鳥屋平遺跡土坑２号・３号・４号

土坑３号（図４）

土坑２号の北1.5ｍにあり，南北109，東西140㎝の楕円形をなし，主軸方向Ｎ50°Ｗを指す。西側で25㎝，東側で10㎝ローム層に二段に掘りこむ土坑であり，西壁に２この石が付く。覆土は暗褐色土・暗黄褐色土で埋まり，出土遺物はないが時期は縄文後期とみたい。

土坑４号（図４）

土坑２号の西に隣接し，南北165，東西105㎝の楕円形をなし，主軸方向Ｎ30°Ｅを指し，ローム層に15㎝掘りこむ土坑であり，底部に10数この石があり，覆土は黒褐色土・暗褐色土・褐色土で埋まる。出土遺物に縄文後期無文土器１点の出土をみている。

土坑５号（図３）

土坑１号の南西４ｍにあり，南北80，東西154㎝の不整の長楕円形をなし，主軸方向Ｎ70°Ｗを指す。ローム層に西側で33㎝，東側で25㎝と二段の掘りこみをもつ。覆土は暗黒褐色土，暗黄褐色土で埋まる。遺物の出土をみないが周辺の状況からみて縄文後期の土坑とみたい。

土坑６号（図５）

土坑１号の西3.5ｍにあり　南北92，東西127㎝の不整の隅丸台形に近い形状をなし　主軸方向Ｎ76°Ｗを指す。ローム層に中央部は南北方向に溝状に深さ30㎝，東西西側は20㎝の深さに掘りこむ土坑であり，

遺物の出土はなく，周辺の状態からみて縄文後期とみられる。

土坑７号（図６）

Ⅱ調査区４の旧流路とみる北縁部を僅に離れてあり，南北122，東西95cmの楕円形をなし，主軸方向N20°を指す。ローム層に23cm掘りこむ土坑であり，覆土は黒色土に埋まれ，覆土中に石器と土器片の出土をみており，その状態からして土壙とみるものである。

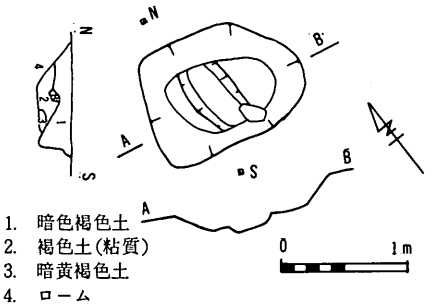


図５　鳥屋平遺跡土坑６号

遺物（図９の４～７）土器は４の１点であり，半載竹管文による平行沈線のみの文様構成をなす平出Ⅲ類Ａの土器片である。石器５は横刃形石器で硬砂岩製，重量20ｇ。６･７は打石斧，６は硬砂岩，７は凝灰岩製で刃部を欠く。重量は６は85ｇ，７は100ｇである。

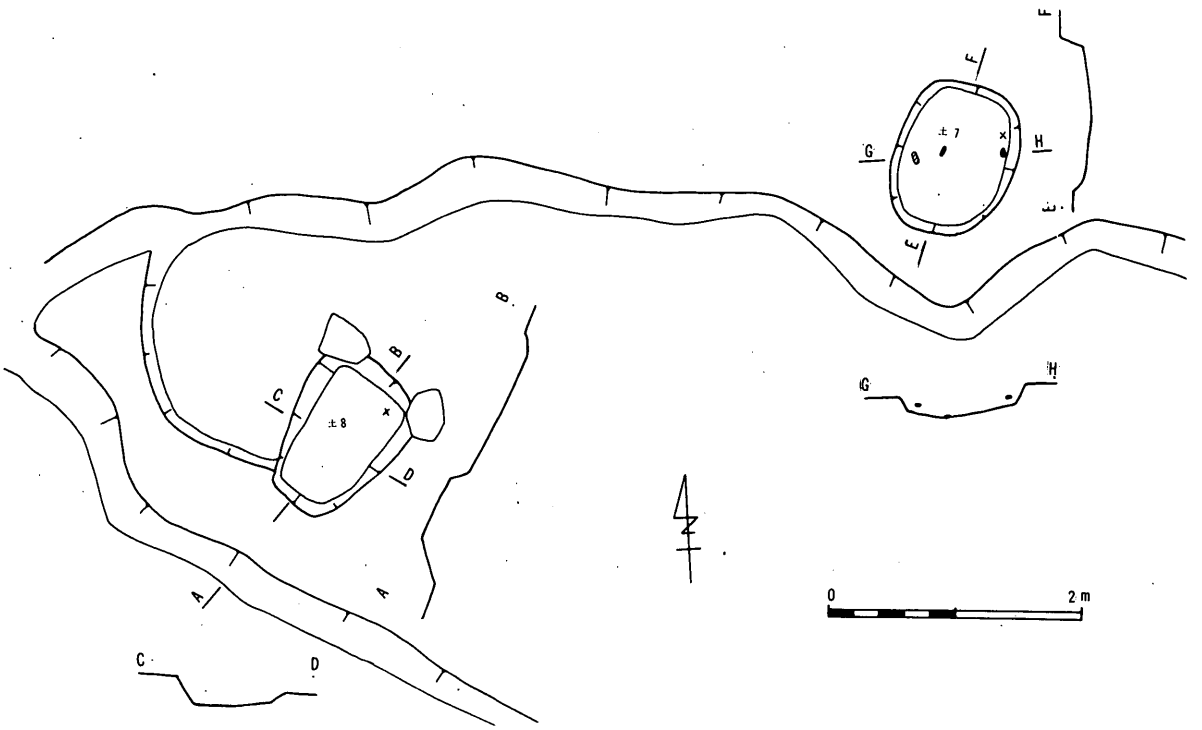


図６　鳥屋平遺跡土坑７号・８号

土坑８号（図６）

旧流路の中に掘りこまれており，土坑７号南西４ｍにある。南北127，東西92cmの隅丸長方形をなし，主軸方向N40°Ｅを指す。旧流路の底部のローム層より15cm掘りこまれている。旧流路を埋めているは黒色土であり，土坑覆土も同一黒色土であるが，後に掘りこまれたものとみたい。遺物（図９の8･9）８は無文の縄文後期深鉢，９は黒曜石製のスクレーパーともみるものである。

2. ロームマウンド（図7）

Ⅰ－6調査区に発見され，3～4の大きな長楕円形の掘りこみと，2か所にロームのマウンドを残すものである。

Ⅰ号は東側にあり，南北270，東西115㎝の三角形状をなし，西側は袋状の掘りこみをなし，二段になって掘りこまれ，最深部で57㎝ローム層に掘りこみ，西側に高さ17㎝の平担なマウンドがつく。また北端

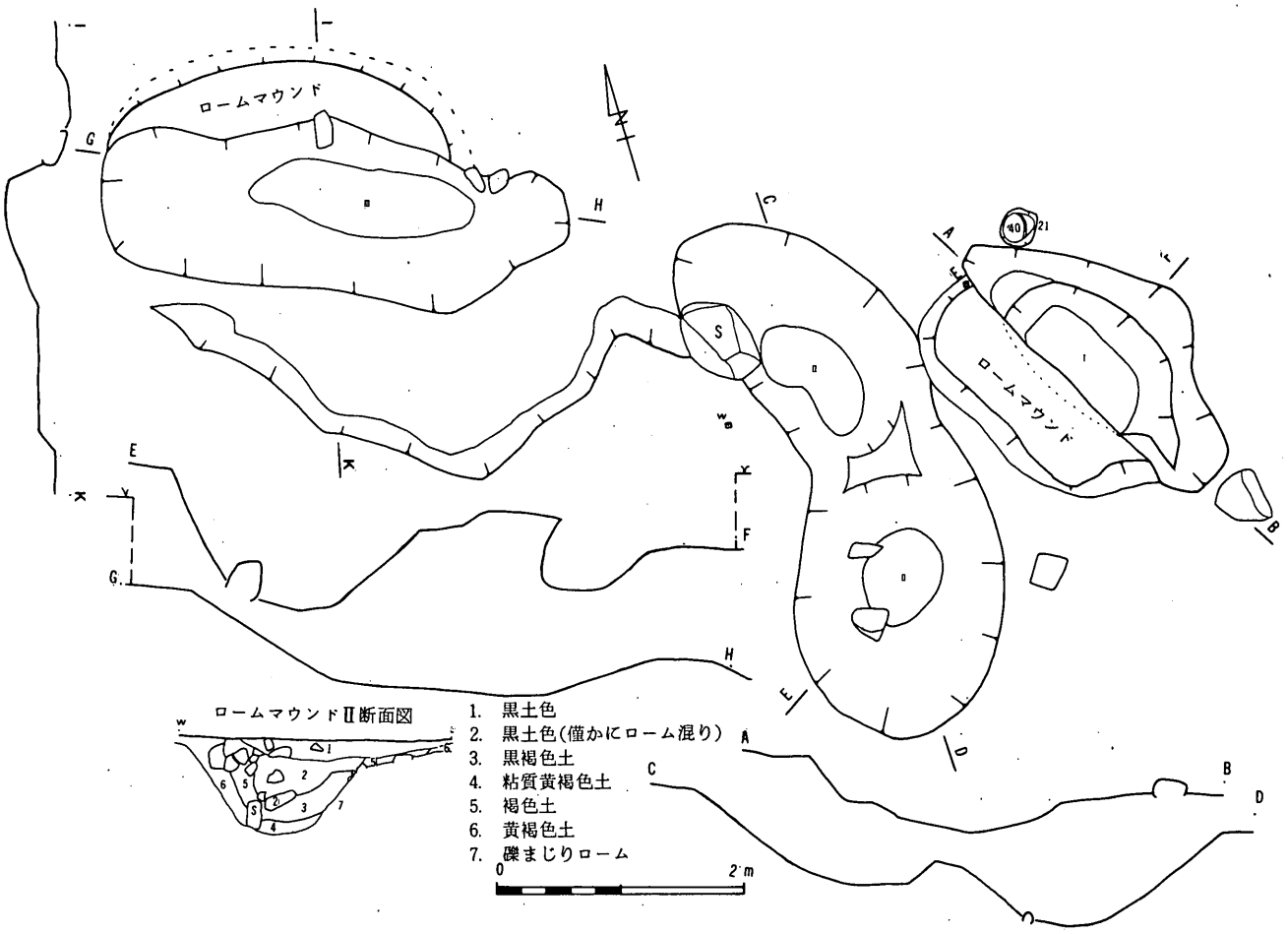


図7　鳥屋平遺跡ロームマウンドⅠ・Ⅱ・Ⅲ号

に深さ40㎝の柱穴1こがある。

Ⅱ号は中央部にあり，南北440，東西130・170㎝の2この掘りこみよりなる。ローム層に最深部は北側75，南側100㎝の深い掘りこみをもつ。北側の東1部はマウンドに接している。西側は1段高くなっているがマウンドの残りともみられるが，水田造成によって削平されており不明である。

Ⅲ号はⅡ号の西90㎝にあり，南北145，東西380㎝の不整長楕円形をなし，ローム層に最深部で50㎝の掘りこみをもつ。北側に高さ12㎝程のロームマウンドがつくが水田造成時に削られ十分な姿を残していない。

ロームマウンドよりの遺物はなく，また形態からみて人工的であるか自然の風倒木等によるものかは明確にできなかった。

3. 氾濫流路跡（図８）

Ⅱ－４調査区に発見され，この付近で前地主の北原氏は土器片を表採しているとのことで期待のもてたところである。

西から東にかけて黒色土で埋まり，西側では15cm前後でローム層となるが東に傾斜する地形は黒土の堆積が深まり70～100cmとなる。西の幅は３m，東13mでは 7.4 mと幅が広くなる。

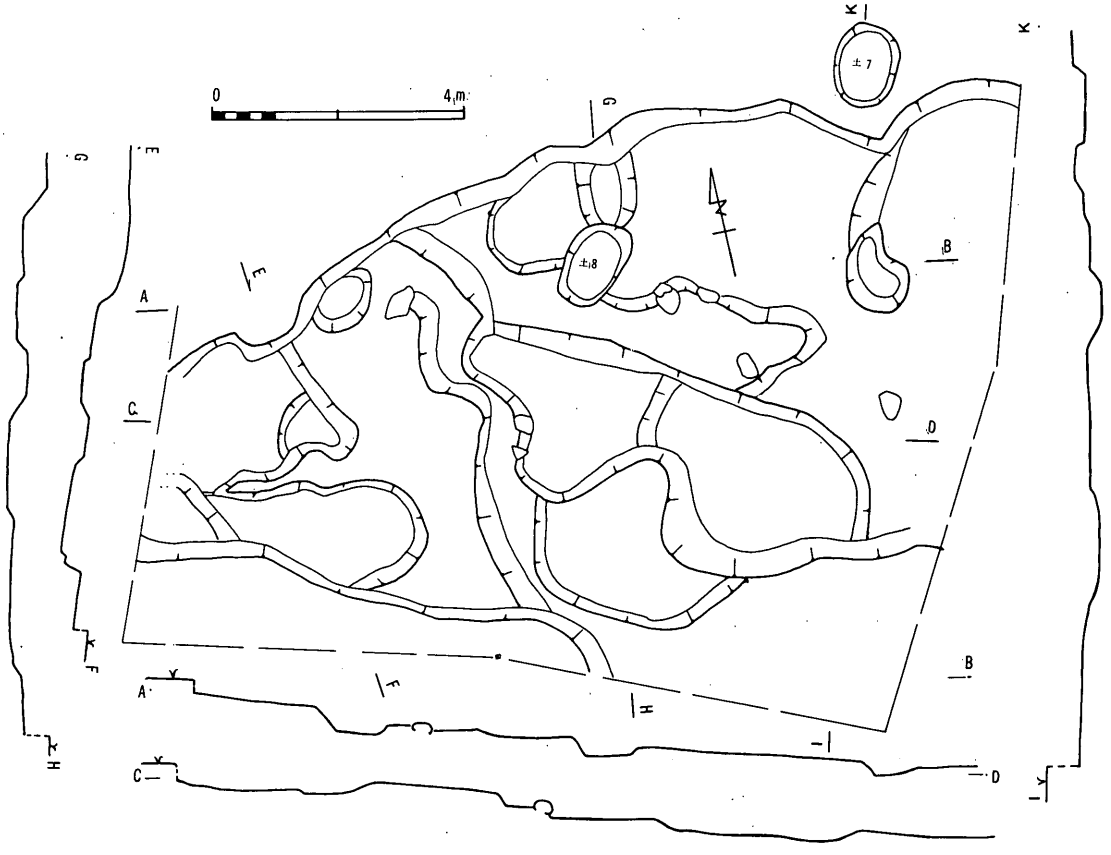


図８　鳥屋平遺跡氾濫流路跡，土坑７号・８号

いくつかの掘り凹と，その間に平担面をもち，さらに段をなして下がる。掘り凹みの中には土坑状のものもみられるが，土坑とはいいきれないものである。これらの状態からして，集中豪雨により，急傾斜をもつ面は先に流され，ローム層も削り，凹みをうがち，その後を上部から流れた腐植土によって埋められたとみるべきもので，一時的な豪雨によって形成された流路とみたい。土坑８号の状態からみて縄文後期前の時期と考えられる。遺物の出土はない。

4. 暗 渠 水 路（図10）

Ⅰ－４・５調査区に発見され，100～130cmの幅，110cm余の深さにローム層に掘りこみ，石組暗渠を築いた水路である。ローム層を掘り，石組の上に掘り上げたロームを埋めたため，水路は表土を排除したあとに一見わかる状態にある。古老の話では堤を中心とした周辺に湧水が多く，これを集めて「ますや」という造り酒屋が酒醸造用水に引いたものである。「ますや」は江戸時代から三州街道筋にあって江戸時

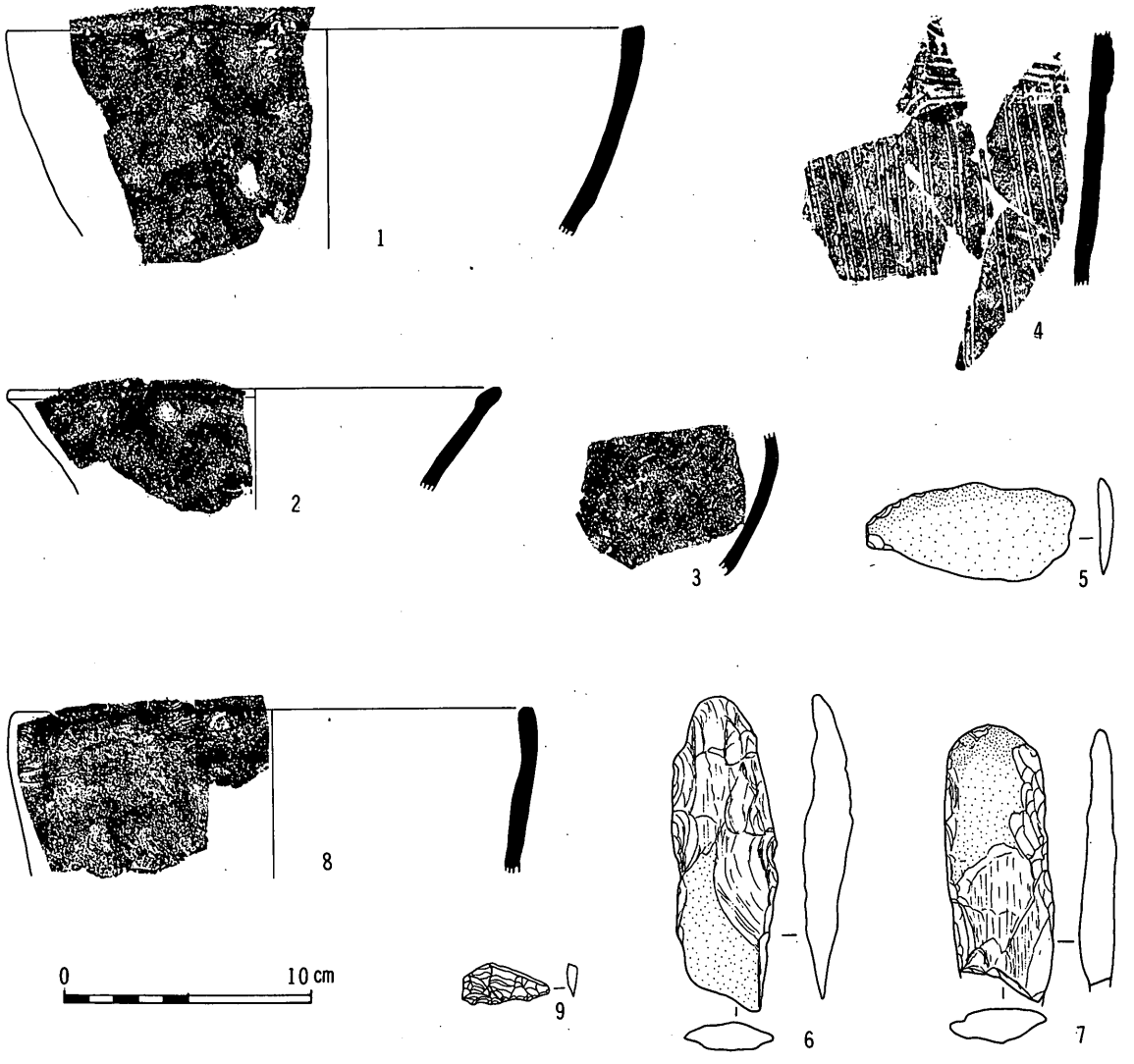


図９　鳥屋平遺跡出土遺物（１：３）
１～３……土坑１号，４～７……土坑７号，８・９……土坑８号

代から中馬相手の酒屋であり，暗渠水路は江戸時代に作ったものである。三州街道（現国道153号）の改修が明治26年には完成をみており，このため旧三州街道沿いにあって中馬相手の「ますや」の酒造りは立ちいかれなくなり，明治38年頃酒造りを廃業し，現在北方で呉服店ますやを経営している。（ますや当主増田源之助氏談）調査したのは40m余であるが，「ますや」の跡地につながる方向にあり，西の水源地は丈なす雑草と水溜りで調査不能であった。

5.　用地外の遺物（図11）

Ⅱ－２調査区，４トレンチのすぐ西の畑より，かって耕作の時出土した土器，石器がある。畑所有者木下厚隆氏の耕作中に出土したものである。土器（図11の１）は口縁部を欠く大形の深鉢で，胴中央部はややくびれて口縁部へ外反を示す。縄文帯と無文帯とを，細い沈線で，縄文帯の幅は狭く，胴中央部を横帯をめぐらし，胴上部は，ｕ字状の区画文を縦に施文するが，縁部文様は不明である。文様構成は狭い縄文

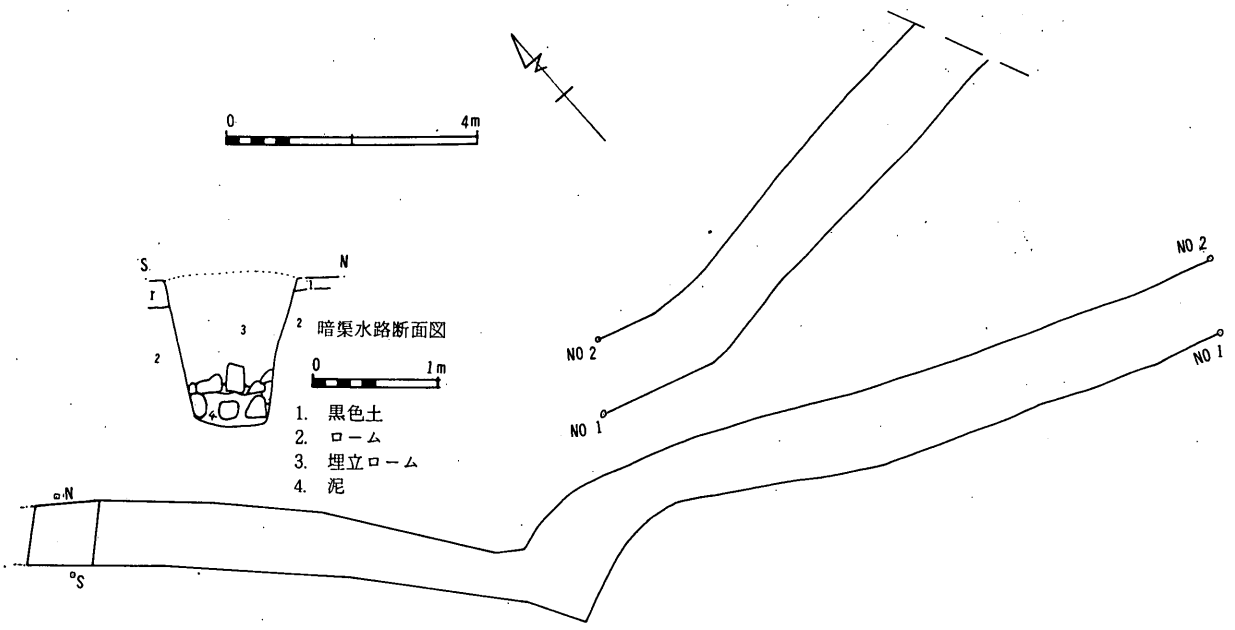


図10　鳥屋平遺跡近世酒醸用水暗渠水路

帯を細い沈線で区画しており，胴下部は無文である。近幾の中津式後半にみる器形・文様とみるもので，口縁部は波状口縁か平縁かは不明である。底部はやや上げ底，アジロ底である。縄文後期前半に位置づくものとみたい。

石器（2～6）はいずれも打石斧，硬砂岩製，5のやや大形の基部を欠く以外は，同じ大きさをなし，平均長さ 11.15 cm，幅 4.67cm，重量 126 g，刃部に使用痕がみられ，6は横刃形石器ともみられるものである。

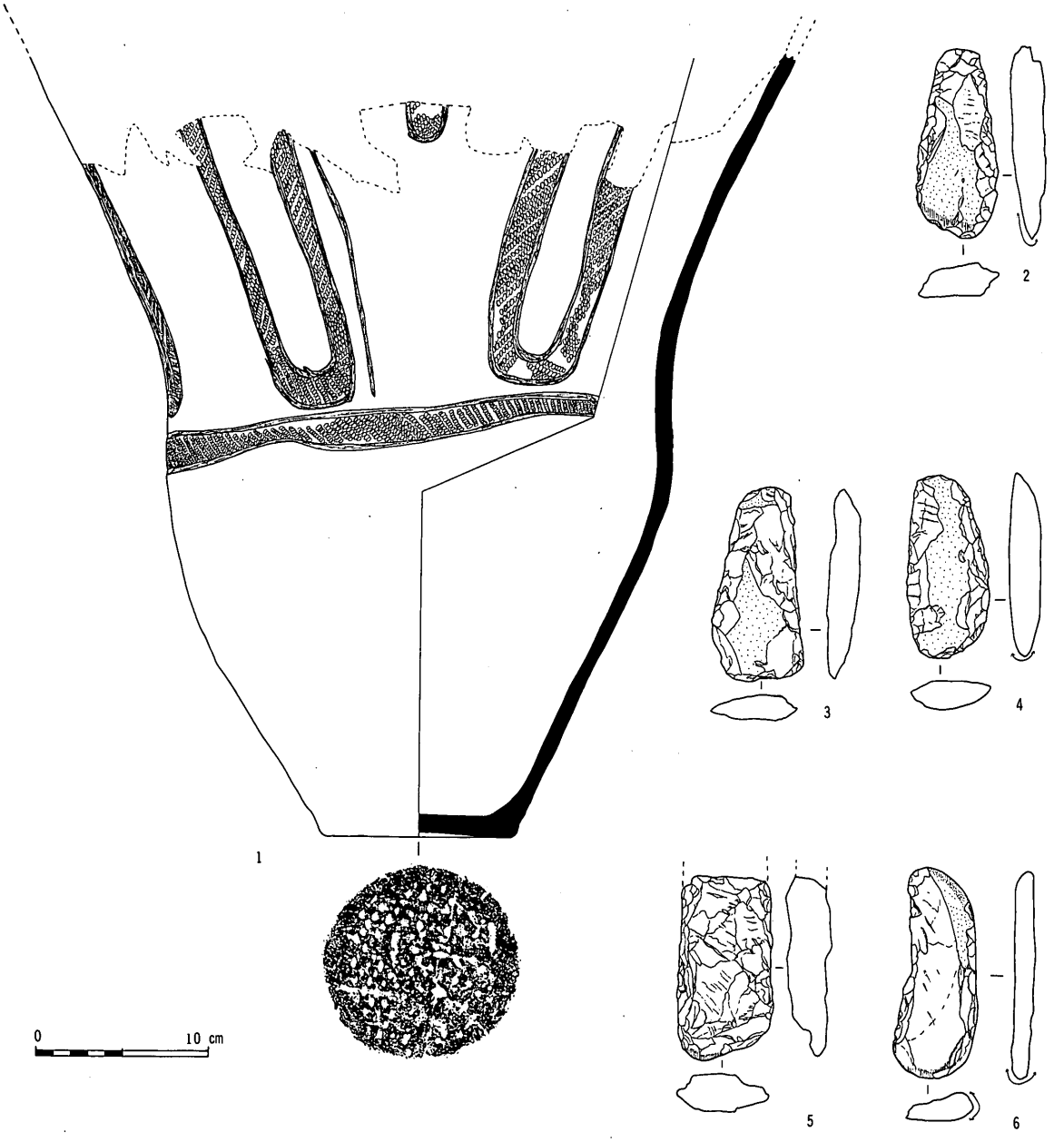


図11　鳥屋平遺跡用地外西側畑出土遺物（1：4）

Ⅳ　ま　と　め

鳥屋平遺跡は笠松山，鳩打峠の山麓からのびる扇状地の南西端部近くにあり，南は旧茂計川流路を示す低地帯となり，北は新川上流地帯の低地の水田が東西に続き，その間にのびる扇状台地にあり，飯田西部中学建設用地を境にした東側中央部は比高差１～２ｍの低地帯となり，その両側に西からの台地がのびてきている。低地帯は湧水があり，この湧水をもつ学校用地西側の台地上に遺跡の中心部はあり，今次発掘地域は遺跡の中心をはずれた東端部にあたっていた。

発掘調査された縄文時代遺構は土坑８であり，土坑７号は中期中葉平出Ⅲ類Ａの土器片があり，土坑１号・４号・８号は後期無文土器の出土をみたもので，７号を除き，２・３・５・６号のＩ調査区土坑群からみて後期に位置づくものとみたい。

用地外西側境すぐ西の畑出土の大形深鉢は口縁部を欠きはっきりいえないが，文様構成は狭い縄文帯を細い沈線で区画しており，近幾の中津式後半にみる器形・文様とみるものであり，縄文後期前半に位置づくものとみたい。耕作中の出土であるが，遺構の存在が予想されるもので，縄文後期を中心とした集落が，用地外西の台地に展開されたものと推測される。

近世酒醸用水暗渠水路は推定長さ 250ｍ，幅 100～130㎝，深さ 110㎝余のものであり，江戸時代五街道の一つ中山道の脇往還として，中部山岳地帯と東海地方を結ぶ陸上運送の主役であった中馬街道として三州街道（現国道 153号）は栄えたものである。この中馬を相手の造り酒屋も繁昌したものである。酒醸用の水を運搬するかわりに，暗渠水路を構築して水を引いたことは，近世産業史の上で見落すことのできぬものと注目される。

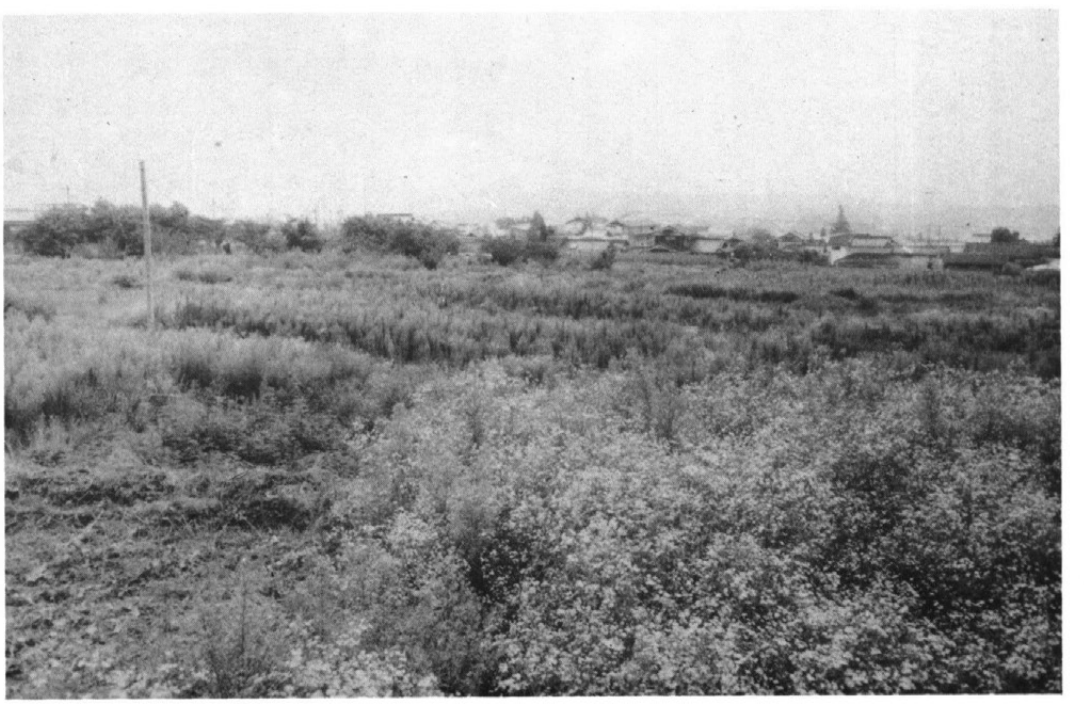
発掘調査された遺構・遺物は少ないが，遺跡の外郭を知る上で，その意義は見逃すことのできないものがあったと思われる。

おわりに，本次調査にあたって，地元の方々の御理解・御協力があり，８月下旬の暑さの中で作業にあたられた方々の御努力に深謝したい。

（佐　藤　甦　信）

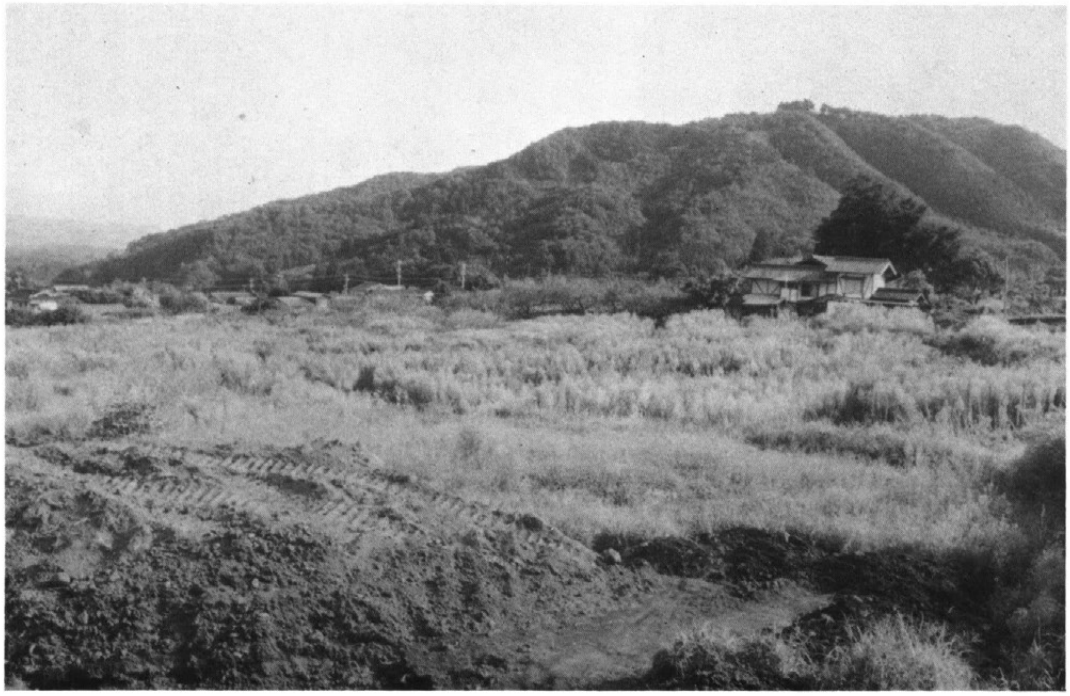
図版Ⅰ　遺　　跡

北西から



西から

東　か　ら



北東から

調査グリッド

調査グリッド

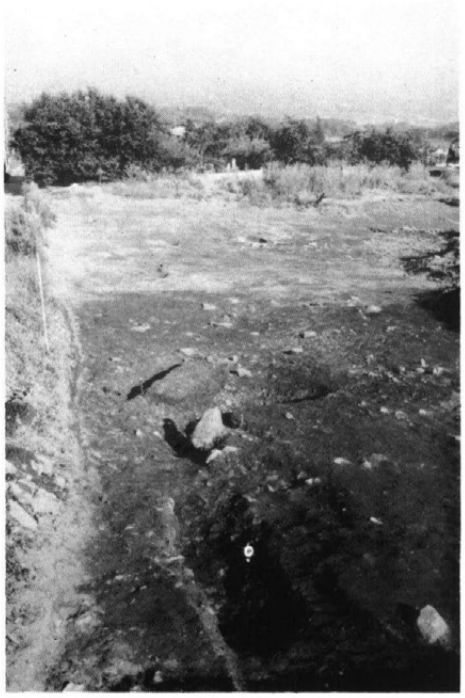
調査グリッド

Ｉの３　調査区 ― 東より

Ｉの３　調査区 ― 西より

図版Ⅱ　遺　　構

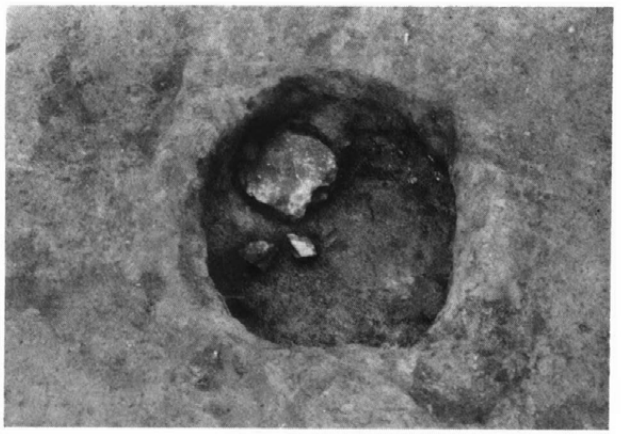
Ⅰの１調査区遺構群 ── 南から



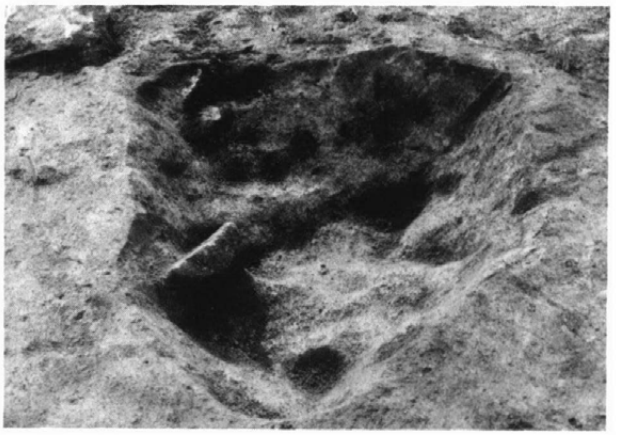
Ⅰの１調査区遺構群 ── 北から

Ⅰの１調査区土坑群 ── 南から

Ⅰの１調査区土坑群 ── 北から



土 坑 1 号



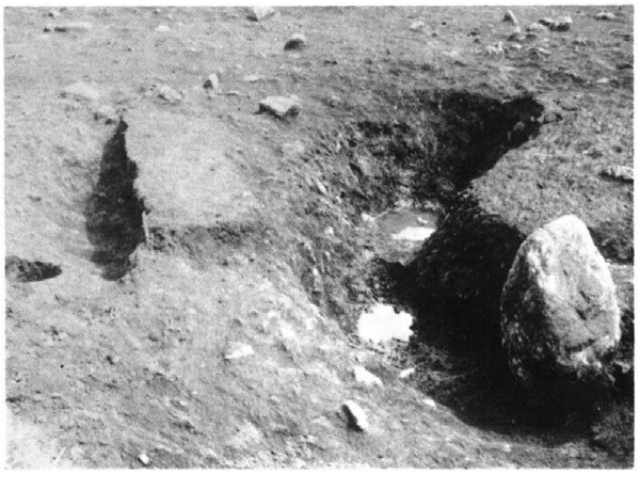
土 坑 2 号

土坑2号（下），4号（上），5号（左上）

土坑8号

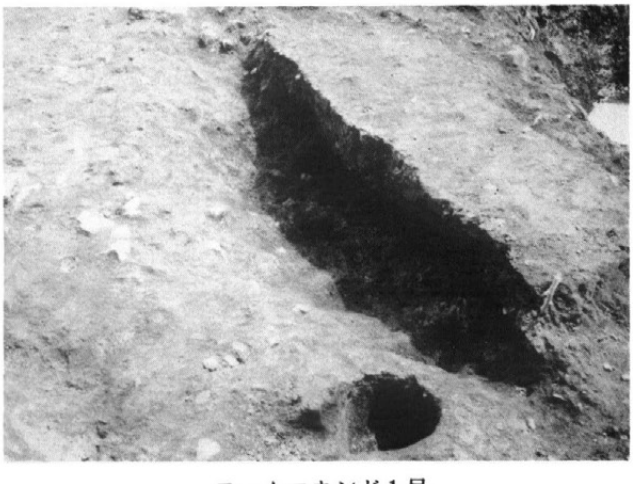
土 坑 3 号

ロームマウンド全景 ― 西から

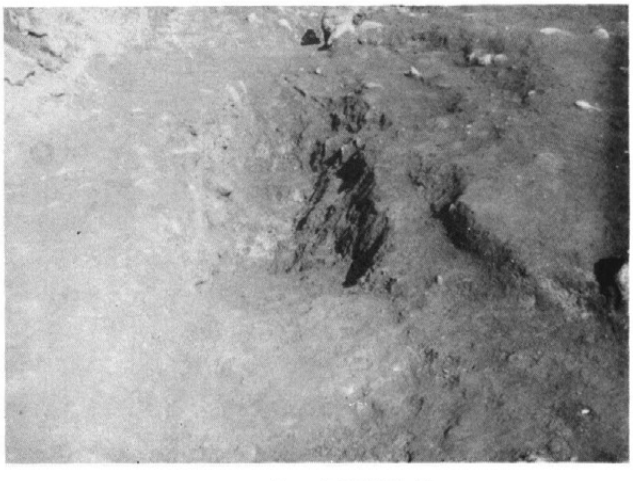


ロームマウンド1号（左），2号（右）

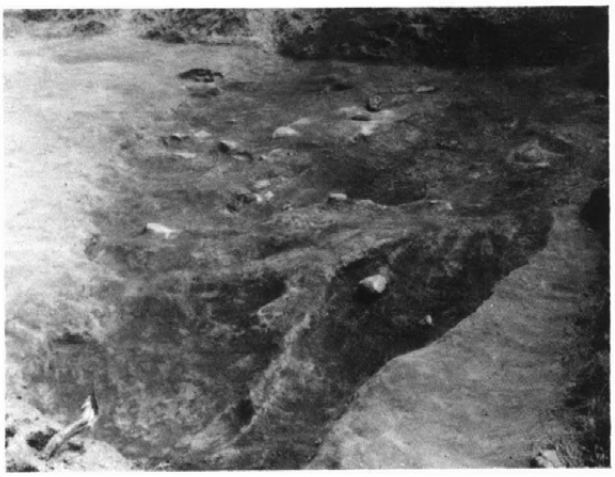
ロームマウンド全景 ― 東から



ロームマウンド1号

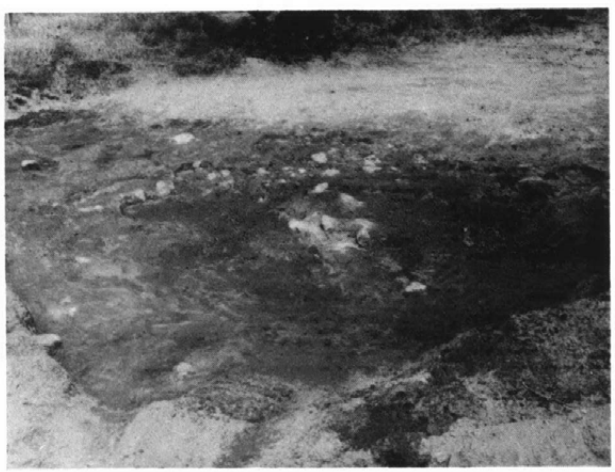


ロームマウンド3号



氾濫溝址（左上土坑７号・手前中央土坑８号）― 西より

氾濫溝址 ― 東より

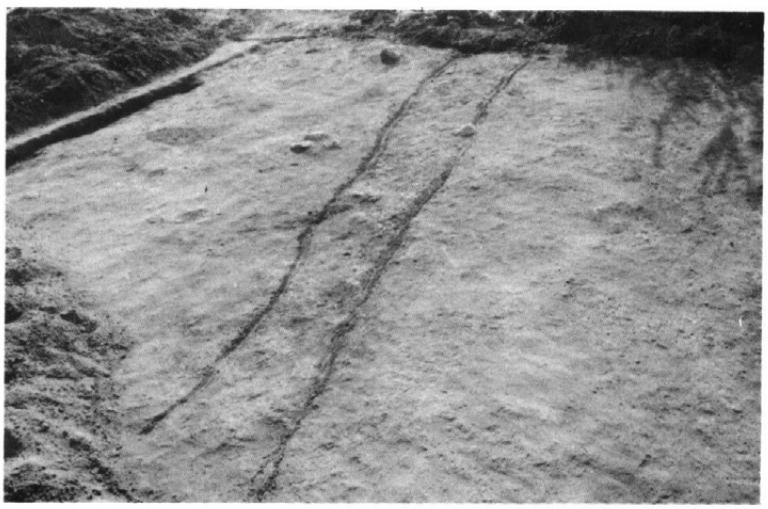


氾濫溝址 ― 南東より

氾濫溝址 ― 南より

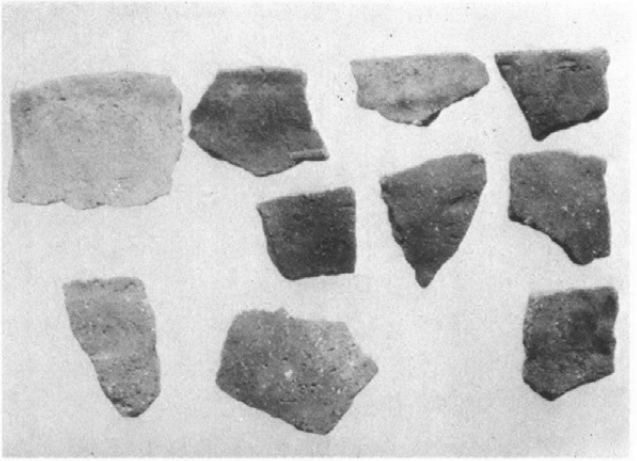
酒醸用水暗渠水路

酒醸用水暗渠水路断面

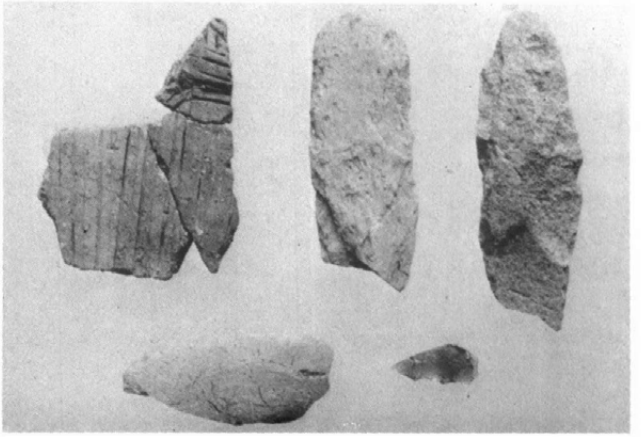


酒醸用水暗渠水路 ― 東へ続く

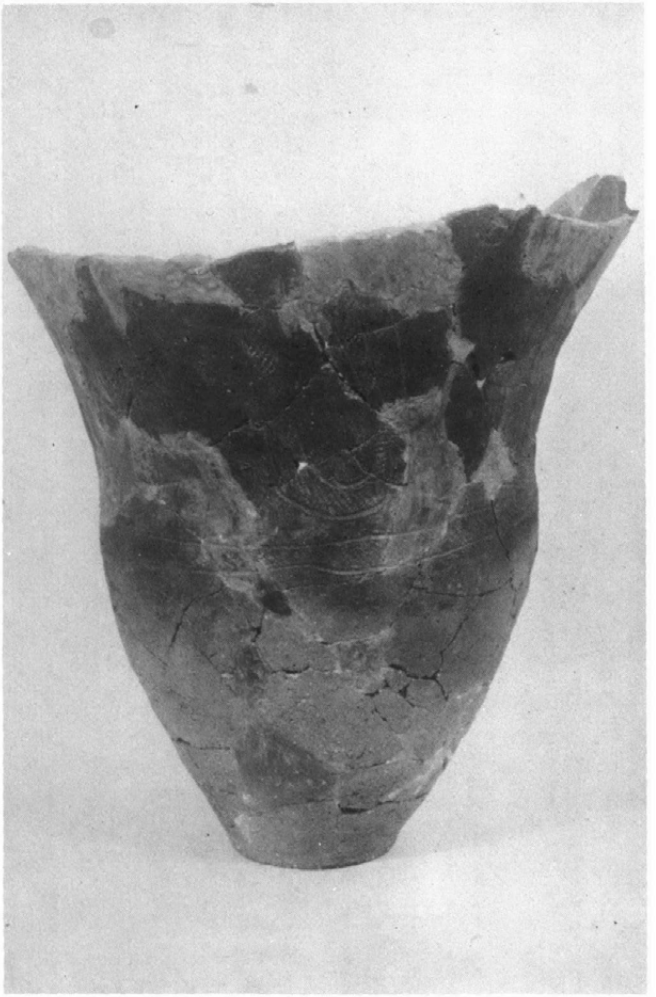
図版Ⅲ　遺　　物



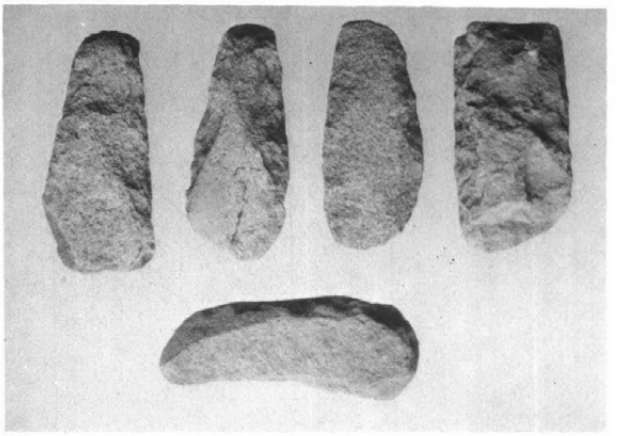
土坑１号出土縄文後期土器片



土坑７号（上３と下左），８号（右下）出土遺物



用地外西側畑出土土器



用地外西側畑出土石器

図版Ⅳ　発掘スナップ

重機による雑草と表土排除後，調査にかかる

土坑群の検出作業

深い水田埋土の排除

暗渠水路の検出

氾濫溝址の検出

氾濫溝址の検出

調　査　組　織

1. 鳥屋平遺跡埋蔵文化財調査委員会

佐藤甦信	日本考古学協会員	
林　研二	飯田市教育委員会教育長	
福井　実	〃	教育次長
塚平清俊	〃	学校教育課長
竹村宗丘	〃	社会教育課長

2. 調　査　団

団長	佐藤甦信
調査員	小林正春

3. 指　　導

長野県教育委員会文化課

4. 事　務　局

竹村宗丘	飯田市教育委員会社会教育課長	
池田明人	〃	社会教育課文化係長
宮沢勇次	〃	学校教育課施設係長
湯沢英範	〃	学校教育課施設係
小林正春	〃	社会教育課文化係
家田昌子	〃	庶務課

5. 作　業　員

北村重実	木下辰雄	竹中寿夫
大島利男	小島利仁	田口千代造
今村式部	柘植勝次	宮島平三
森　章	吉沢徳男	久保田まさえ
田畑和美	西村晃子	松島みゆき
牧内住子	佐藤いなゑ	田口さなゑ

鳥　屋　平　遺　跡

飯田西部中学(仮称)建設用地内
埋蔵文化財発掘調査報告書

1983・3

発　行　長野県飯田市教育委員会
印　刷　株式会社　秀　文　社